

平成28年度各会計決算額

Table with 3 columns: 会計区分 (Accounting Division), 歳入 (Revenue), 歳出 (Expenditure). Rows include 一般会計, 水道事業会計, 公共下水道事業会計, 国民健康保険事業特別会計, 介護保険事業特別会計, 後期高齢者医療事業特別会計, and 計 (Total).

※平成27年度と比べると、歳入は5億8535万円の増(+0.6%)、歳出は21億1734万円の増(+2.4%)となりました。

平成28年度決算を 審査・認定

平成28年度の「一般会計決算」と「水道事業会計決算」、「公共下水道事業会計決算」、そして「国民健康保険事業」、「介護保険事業」、「後期高齢者医療事業」の認定についての各議案は、9月5日の本会議で、委員会条例を改正し、23人の委員で構成する予算決算常任委員会を設置、9月7日の本会議で同委員会に付託しました。

委員会では、9月12日に総括質疑と歳入の質疑、13日に総務分科会、14日に文教福祉分科会、15日に環境都市分科会をそれぞれ開催し、執行部に関係職員の出席を求め、慎重に審査しました。

(以下、質疑などの要旨を掲載)

総括質疑

市民力の実現や地域まちづくり拠点の整備への取り組みについて

市民との協働をはじめとした市民力の実績と、市民力を実践する拠点整備への支援は、どうか。

答 市民と行政の役割分担により事業を行う提案型協働事業を創設し、平成28年度は健康寿命を延ばす介護予防事業など、3件の事業を実施した。また、開放型自治会館などの拠点整備を支援した。

専門性の高い人材育成と職員の適正配置について

専門的な職員育成の取り組みはどうか。また、女性職員の管理職への登用や再任用職員の配置など、職員の適正配置はどうか。

答 専門性向上のため、外部研修や関係機関への派遣を続け、自身の強みを生かし、効果的に職務に取り組める仕組みの導入を検討している。また、女性職員だからこ

そ活躍できる場や再任用職員の知識・経験が生きる業務などに配慮し、適切な配置に努める。

地域と学校が連携した教育の取り組みと課題について

小中一貫教育を、今後どのように関連づけて進めるのか。また、教員の多忙化につながらないような支援体制が必要ではないか。

答 一貫教育という縦軸に学校運営や教育活動といった横軸が交わり、目指す子ども像・学校像を地域と共有し、一体的に取り組むことができた。また、支援組織の業務が逆に教育現場の多忙化を招く事例もあり、先行する西中学校などの取り組みを検証したい。

災害等の緊急時に備えた実践的な訓練について

防災意識を高めるため、※防災ゲームなど、実践的な防災訓練

が必要と考えるがどうか。

答 自治会などから依頼があれば、防災アドバイザーなどを派遣し実施しているが、今後は防災教育訓練のメニューに取り入れたい。

地域特産品の活用やじばさんずの拡充について

本市の農産物をさらにPRしていくために、ブランド化ができていくか。また、じばさんずの機能拡充を図るため移転し、食の発信拠点として展開してはどうか。

答 既存の認証制度だけでなく、秦野名水などの地域資源も活用し、地域間競争に乗り遅れないように全国にPRしたい。また、じばさんずの立地を生かし、地場産食材を用いたレストラン設置などにより、十分に拠点となると考える。

分婉体制の整備について

秦野赤十字病院の分婉再開に向けた取り組みはどうか。また、八木病院の移転にかかる取り組みと、分婉を継続している診療所への支援はどうか。

答 秦野赤十字病院の分婉再開については、県に派遣につながる寄附講座の開設支援を要請している。八木病院については平成34年の開設を柱とし、33年まで市有地を確保する予定である。また、市内で分婉を扱う診療所については、分婉手当の助成だけではない、新たな支援を検討する必要がある。

新東名高速道路や国道246号バイパスなどを生かした周辺整備について

国道246号バイパス活用には各高速道路間の接続が重要であるが、進捗はどうか。また、西の玄関口となる(仮称)秦野西インターチェンジの周辺整備はどうか。

答 国道246号バイパスの非事業化区間については、有志議員の支援もあり事業化を働きかけている。また、工業系用途地域において緑地面積率を緩和し、既に施設増設などを検討する企業もあり、本市西部地域の活性化に取り組み、滞納者の生活実態の把握と適正な

秦野赤十字病院の分婉再開については、県に派遣につながる寄附講座の開設支援を要請している。

八木病院については平成34年の開設を柱とし、33年まで市有地を確保する予定である。また、市内で分婉を扱う診療所については、分婉手当の助成だけではない、新たな支援を検討する必要がある。

新東名高速道路や国道246号バイパスなどを生かした周辺整備について

国道246号バイパス活用には各高速道路間の接続が重要であるが、進捗はどうか。また、西の玄関口となる(仮称)秦野西インターチェンジの周辺整備はどうか。

答 国道246号バイパスの非事業化区間については、有志議員の支援もあり事業化を働きかけている。また、工業系用途地域において緑地面積率を緩和し、既に施設増設などを検討する企業もあり、本市西部地域の活性化に取り組み、滞納者の生活実態の把握と適正な

工事設計委託業務の執行率が、予算額の約半分と低くなったが、実施設計の成果はどうか。

答 事業者は、他市の消防庁舎設計などの実績があり、本市が提示した仕様を十分に盛り込んだ実施設計となっている。

建て替えに当たり、平成32年度から救急隊の増隊や機材などの充実を検討しているとのことだが、訓練や研修を十分に行い任務を遂行してほしい。

消防団員と協力店舗の双方にメリットがあるため、引き続き充実した制度となるよう推進してほしい。また、消防団員とその家族が、一緒に参加して触れ合える企画も検討してほしい。

消防署西分署整備事業について

消防署西分署整備事業について



敷地拡張を検討する市役所西庁舎

債権管理について

安易な不納欠損処分をせず、滞納者の生活実態をつかむべきである。児童手当から特別徴収すべきでないかと考えるがどうか。

答 生活状況を考慮して執行しており、特別徴収も行っていない。

歳入の質疑

市民による公共施設の夜間管理の可能性について

公共施設の利用者が夜間管理をし、使用料が削減できないか。答 コスト減につながるが、超えるべきハードルがあると考ええる。



コミュニティ・スクールの有効な活用を(写真は西中学校)

予算決算常任委員会

Table listing members of the Budget and Accounting Committee, including Chair, Vice-Chair, and various sub-committee members.

【用語解説】 ※防災ゲーム：災害のさまざまな要素をゲームに取り込み、その疑似体験を通じてプレイヤー自らの災害対応・災害行動を学習・訓練するための防災シュミレーションゲームのこと

文教福祉会
福祉部
子ども健康部
教育委員会

こども相談事業について

問 妊娠前から子育て期における悩みなど、複雑で多様化する子どもに関する平成28年度の相談件数は、27年度と比べ2千件近く増加したが、その対応状況はどうか。

答 養育と発達・性格行動に関する相談が特に増加しており、発達に課題を持つ子どもに対して、発達検査などを行っている。保護者の同意が得られれば、学校と協力し学習やコミュニケーション能力など、自らの力では解決できない課題をチームでサポートしている。

環境都市会
環境産業部
建設部・都市部
上下水道局
農業委員会事務局

騒音・振動防止対策について

問 一つの事業所から発生した騒音が主な要因となり、平成28年度における騒音・振動苦情対応件数は27年度より大幅に増加しているが、騒音の場合、継続して測定することが重要であり、一定の期間連続測定できるシステムの構築が必要と考えるが、どうか。

答 騒音に限らず、公害の発生はケースごとに異なるため、まずは現状を確認し、それに適した指導方法を検討している。継続して測定することも必要に応じて行う可能性はあるが、市内の各事業所には規制基準の順守と周辺住民への配慮を強く要請していきたい。

質の高い相談体制を維持するため、相談員の増員も検討してほしい。

ペットの防災マニュアルの改定について
問 ペットのいる家庭が多くなり、災害時の重要な課題であることから、平成25年度に策定された「ペットの防災マニュアル」を市獣医師会や動物愛護ボランティア団体など関係機関の意見を取り入れた、より具体的な防災マニュアルとして改定してほしい。

要望 平成28年度に、高齢者福祉施設としての機能を継承しながら自治会館として利用するため、老人いこいの家すずはり荘の建物を鈴張町自治会に無償譲渡したが、自治会加入率が下がっている中、建物の修繕費用は深刻な問題になると考えられるため、施設の運営に対してさまざまな支援をしてほしい。

個人井戸の水質検査にかかる費用の助成について
要望 地下水保全条例に基づく、個人井戸の届け出件数は879件あるとのことだが、災害時に飲料水として活用することができるよう、現在、個人で負担している水質検査にかかる費用について、助成する制度を検討してほしい。

秦野落花生生産支援事業について
意見 平成28年度の落花生収穫量は25年度と比較すると約2割減少しているとのことだが、人気がある「うでピー」などの加工品をメーンに、秦野の落花生を広くPRすることでブランド化を図り、生産性の維持・向上につながるような検討をすべきである。

解や生活指導による基本的な生活習慣の形成などを支援するため、教育指導助手を派遣したとのことだが、その効果はどうか。

答 学校には教職員の多忙化など、多くの課題が山積しているが、子ども一人一人と向き合いながら寄り添い、きめ細やかな支援をすることで、個々に応じた適切な教育的対応などが可能となった。

西中学校体育館等複合施設整備について
要望 地域交流の拠点機能を持つ多機能型体育館として整備するにあたり、平成28年度に施設の規模や配置、機能などについて整備構想の策定を行い、29年度は基本設計を進めるとのことだが、学校教

ホームページなどで周知するだけでなく、小田急線の車内モニターも活用し周知を図ってほしい。

はだの桜みちの桜の樹木診断について
問 平成28年6月に市道623号線沿いの水無川緑地の桜が、腐朽菌が原因で倒木したことにより、はだの桜みちがある市道23号線の桜の樹木診断を実施したとのことだが、その結果と今後の対応はどうか。



地元自治会に無償譲渡された老人いこいの家すずはり荘



落花生のブランド化を図り、生産増を

討論

▼本会議での反対討論

市役所西庁舎敷地拡張に当たり、土地購入が遅れ不要な支出が発生したこと、また、市税滞納者の生命保険を差し押さえていること、自然環境や地域を分断する新東名高速道路関連事業を進めていることなどから、反対する。

▼本会議での賛成討論

自主財源の要である市税収入、とりわけ個人市民税は4年連続の減となるなど、生産年齢人口の減少が明確に表れ、本市の担税力はさらに低下しており、財政調整基金の取り崩しなどでのしのぎ厳しい1年となった。

このような中でも、専門部署を設置し収入未済額や不納欠損額を減らし、借入れを最小限にとどめ、決算時点のプライマリーバランスの黒字を維持しながらも、公共施設再配置計画や鶴巻温泉駅南口整備、カルチャーパーク再編整備に、満床となった定住化促進住宅「ミライエ秦野」など、将来世代を見据えた事業を両立し展開していることを評価する。

これ以外にも、小児医療費助成対象者の拡大や桜と山を効果的につなげたシティプロモーション、ふるさと寄附金制度による本市の知名度向上など、さまざまな施策を進めたが、限られた財源を集中投資するためには事業を選別することも重要であり、また、道路などの社会インフラの更新計画など、着しづらな事業への積極的な投資も必要である。

本市にとって新東名高速道路が開通する重要な年である平成32年度が目前に迫る中、同年に開催されるオリパラを契機とした森づくりになど、時代を見据えた市政運営を期待する。

▼採決の結果
委員会 認 定(賛成多数)
本会議 認 定(賛成多数)

水道事業会計

設備の見直しと黒字経営を維持することについて

問 設備における※最大稼働率と※施設利用率については、類似団体と比較して低い数値であり、設備が過剰であると考えがどうか。

答 設備の見直しについては、施設の重要度や地震によるリスクなどを考慮した上で施設の効率化や統廃合を図る。また、今後、配水管網の見直しを進め、施設規模の適正化に努めていく。

要望 水道料金を上げずに黒字経営を維持できるように、努力を続けたい。

▼本会議での反対討論
家事用と事業用の水道料金値上げ幅が異なること、消費税を賦課していることなどから、反対する。

▼本会議での賛成討論
県内広域水道企業団の経営状況に踏み込み、県水受水費が適正であるか検証すべきである。

▼採決の結果
委員会 認 定(賛成多数)
本会議 認 定(賛成多数)

国民健康保険事業特別会計

医療受診を妨げる資格証明書を発行し続けており、反対する。

▼採決の結果
委員会 認 定(賛成多数)
本会議 認 定(賛成多数)

介護保険事業特別会計
地域支え合い型認定ドライバー養成研修について
問 公共交通機関を利用することが困難な高齢者などに対し、無償で移動支援を担う認定ドライバー養成研修を初めて開催したが、概要はどうか。

答 福祉的視点での運転方法や各地域で実施している活動を紹介し、新たな送迎サービスの担い手創出につながる講座を開催した。

要望 地域で高齢者を支えることは介護予防に有効であり、今後も多くの担い手を創出してほしい。

▼本会議での反対討論
生活援助サービスを自己負担とすることは認められず、反対する。

▼採決の結果
委員会 認 定(賛成多数)
本会議 認 定(賛成多数)

後期高齢者医療事業特別会計

高齢者に重い負担を求める現行制度を廃止し、老人保険制度に戻すべきであるため、反対する。

▼採決の結果
委員会 認 定(賛成多数)
本会議 認 定(賛成多数)

用語解説 ※最大稼働率: 最大給水率の割合を示す指標。1日最大配水量÷1日排水能力×100で算出される。
※施設利用率: 1日に平均してどの程度施設が効率的に運営されているかを示す指標。1日平均排水量÷1日排水能力×100で算出される。